

# 福山大学 大学教育センター 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

## 基準1. 理念・目的

### 領域: 使命・目的、教育目的

2019年度

大学教育センター運営委員会

中長期計画	大学教育センターは、福山大学の建学の精神に則って、平成21年に設置され、長期ビジョン委員会によって制定された「福山大学教育システム」および「福山大学における共通教育」の基本文書に基づき、「学生に確かな学士力をつけ、地域の中核となる幅広い職業人に育成する」仕事の一翼を担うことをミッションとしている。大学教育センターは、①このミッションにふさわしい全学共通教育を提供することを主要な任務とし、②実践を踏まえた研究を通じて、その内容・方法を絶えず見直すとともに、③大学の新しい価値体系を真摯に追求するため、本学の教育実態に関する各種のアンケート調査に基づく情報のクリアリングハウス機能を果たし、④大学全体としての教育改革を全学のFD活動などを通じてリードしていくことが求められており、これらの理念・目的の達成に向かってきたが、以後もこれに邁進する。
-------	--

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	大学教育センターの教育開発部門が全学の取り纏めを行って、大学ホームページで公表して推進している。同部門ではまた、全学対象のFD研修会・授業参観等の組織的研修・研究会が企画・実施している。これとは別に、大学教育センター所属教員間での授業研究を通じたFD活動も行っている。
年度目標	全学の教育改革推進を支える組織として、活動内容を学内外にさらに浸透させるとともに、教務委員会をはじめとする全学的な関連組織との業務内容の整理・調整を進める。
年度報告	活動内容を学内外に可能な限り浸透させ、大学教育センター運営委員会・教務委員会等の全学的な関連組織との業務内容の整理・調整を図った。
達成度	S
改善課題	全学の教育改革推進を支える組織として、活動内容を学内外に可能な限り浸透させるとともに、大学教育センター運営委員会・教務委員会等の全学的な関連組織との業務内容の整理・調整をより緊密にする。
根拠資料	①福山大学大学教育センター規則 ②福山大学における共通教育 ③大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	全学共通教育・教養教育を担当する部局を有する大学は多く、大学全体としての改革を推進するための大学教育研究センター、大学教育開発センターなど類似の名称の組織を置く大学も少なくないなかで、福山大学大学教育センターはとくに地域に根ざした教育を実現し、他大学との差別化を図るため、地域学の充実、地域におけるインターンシップ実施のイニシアティブをとるなど特色ある活動を展開している。
年度目標	大学教育センターの点検評価結果に基づき、他大学の同様の組織との差別化を強める。とくに教養教育科目F群「地域学」は地域に根ざす福山大学の特色を帯びるものであり、さらなる充実を図る。
年度報告	大学教育センターの点検評価結果に基づき、他大学の同様の組織との違いを検討した。また、地域に根ざす福山大学の特色を帯びる教養教育科目F群「地域学」について、新科目を開設し、充実を図った。

達成度	S
改善課題	福山大学の特色を帯びる教養教育科目の新科目の円滑な導入をはかる。
根拠資料	①「福山大学教育システム」(改訂版) ②「福山大学における共通教育」(改訂版) ③大学教育センターホームページ掲載資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	社会の要請や社会情勢の変化を留意し、地域に根ざす福山大学の特色を帯びるBINGO OPENインターンシップ及び地域学の改革を進めている。
年度目標	現状を踏まえ、さらなるその充実を図る。
年度報告	社会の要請や社会情勢の変化を留意して、地域に根ざす福山大学の特色を帯びるBINGO OPENインターンシップ及び地域学の改革を進めた。
達成度	S
改善課題	社会の要請や社会情勢に留意し、地域に根ざす福山大学の特色を帯びるBINGO OPENインターンシップ及び地域学の運営について、さらに検討を進める。
根拠資料	①大学教育センターのホームページ ②大学要覧における大学教育センターによる共通教育の紹介
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	大学教育センターの使命・目的について、大学教育センターにおいて、教員会議、部門長等連絡会議、運営委員会で検討する仕組みを活用して、周知を図り、理解と支持をおおむね得ている。
年度目標	現状を踏まえ、さらなるその充実を図る。
年度報告	大学教育センターの使命・目的について、大学教育センターにおいて、教員会議、部門長等連絡会議、運営委員会で検討する仕組みを活用して、周知を図り、理解と支持をおおむね得た。
達成度	S
改善課題	大学教育センターにおいて、教員会議、部門長等連絡会議、運営委員会で検討する仕組みにおいて、それら相互の連携をとりながら、理解と支持をいっそう得られるように努める。
根拠資料	①大学教育センター教員会議・部門長等連絡会議・運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	情報公開については、全学の情報公開規程が制定されており、積極的に情報を提供し、社会に対する説明責任を果たすことになっている。大学教育センターにおいても、大学の情報公開規程に則って情報公開を行っている。
年度目標	ほぼ現状を維持するが、社会に対する公表手段としてホームページの充実に努める。

年度報告	社会に対する公表手段としてのホームページ、学長室ブログ、及び大学要覧の関連ページを充実させた。
達成度	S
改善課題	社会に対する公表手段としてのホームページ、学長室ブログをいっそう充実させる。
根拠資料	①大学要覧 ②ホームページ・学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	使命・目的および教育目的は中長期的計画の中に適切に位置付けられている。
年度目標	現状を維持
年度報告	使命・目的および教育目的が中長期的計画の中に適切に位置付けられていることを確認した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①大学要覧 ②ホームページ・学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	使命・目的および教育目的が三つのポリシーの中に適切に反映されていることを確認している。
年度目標	現状を維持
年度報告	使命・目的および教育目的が三つのポリシーの中に適切に反映されていることを確認した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①大学要覧 ②ホームページ等
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	教育研究組織の構成は、大学教育センターの使命・目的および教育目的にほぼ合致しているが、英語科専任教員のように、可能であれば、増員を図りたいところもある。
年度目標	英語専任教員の採用を目指す。
年度報告	英語専任教員の採用を実現した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学要覧 ②ホームページ等

次年度の課題 と改善の方策	
------------------	--

2019年度

大学教育センター運営委員会

## 基準2. 学生

**領域：** 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2019年度

大学教育センター運営委員会

中長期計画	<p>大学教育センターには所属する学生はいないが、全学部・学科の学生を視野に入れ、「面倒見の良い教育」を目指して、学修方法に迷いのある学生、苦手科目の克服を目指している学生、成績を上げたいと思っている学生を対象に、各学部学科の教員と連携して、学修相談や補習授業などを計画・立案・実施している。こうした学生の学修上の諸問題に対処するためのリメディアル教育をはじめとする学修支援を今後とも息長く継続的に実施していく。</p> <p>また、「共通教育アンケート」「授業評価アンケート」を毎年実施し、広い意味での学生の学修環境の整備に努めるとともに、学生からの教育改善につながる意見くみ上げを目的とする催し「フクトーク」を毎年実施し、学生の要望に基づく新規科目の開設を含む教育改善に役立てていくことに積極的に取り組んでいきたい。</p>
-------	--

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の中でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学修支援体制については学外に発信し、学内の学生にはその利用に関して、Zelkova、Cerezo及び学生便覧等を通じて周知徹底を図るように心がけている。
年度目標	現状を維持
年度報告	学修支援体制については学外に発信し、学内の学生にはその利用に関して、Zelkova、Cerezo及び学生便覧等を通じて周知徹底を図るように心がけた。
達成度	S
改善課題	学修支援相談室の利用向上にさらに努める。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	数学基礎力UP講座ではTAを活用することが出来ていたが、これが廃止されたため、共通教育科目に関してはTAはいない状況である。
年度目標	現状を維持
年度報告	学修支援のためにTAを活用することはなかったが、新たなスタッフ(数学)を配置することができた。
達成度	S
改善課題	特になし



根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	学生の社会人としての自立、主体的な人生設計を支援することを目的とし、キャリア教育科目として、1年次より卒業年次まで年次進行に合わせて『キャリアデザインⅠ～Ⅳ』4つの科目を配当し、学生の自立的成長を促すことを意図した科目編成を行っている。インターンシップは単位増となり、一層充実したものとなっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	インターンシップの単位増を行い、それに相応しい充実を図った。
達成度	S
改善課題	インターンシップの単位増の効果について、さらに検討を加える。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	卒業生アンケートを行うなど、常に卒業生の意識を把握し、これを改善に活かしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	卒業生アンケートを行い、卒業生の意識を把握し、改善に向けた検討を行った。
達成度	S
改善課題	卒業生アンケートにおける学生の意識を把握し、さらなる検証と改善に努める。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会資料・議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	学生の社会人としての自立、主体的な人生設計を支援することを目的とし、キャリア教育科目として、1年次より卒業年次まで年次進行に合わせて『キャリアデザインⅠ～Ⅳ』4つの科目を配当し、インターンシップは単位増となり、一層充実したものとなっている。また、大学教育センター資格教育部門の支援も受け、学生の自立的成長を促すことを意図した体制の構築に向かっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	資格教育部門で検討をするとともに、インターンシップの単位増が図られ、一層の充実を図った。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録

次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	㊴ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	㊴ 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	㊵ 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	教職員には「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」「学術研究における倫理審査について」「男女共同参画宣言」「研究費の取扱いについて」「個人情報管理基本方針」を制定し、ホームページで公表し、重要なものについては冊子を配布している。学生へは、学生便覧の「学生生活」の項に、コンプライアンス意識向上、ハラスメント防止等に関する事項を記載し、その発生防止に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	問題となるような事案は起こらず、発生防止の仕組みは機能している。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	㊶ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	校地・校舎等の新規計画においては、大学教育センターの目的の一つである共通教育を実現するための設備充実をはかるべく、新しい視点で多角的な検討を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学教育センターの目的の一つである共通教育を実現するための設備充実をはかるべく、新しい視点で多角的な検討を継続して行った。
達成度	A
改善課題	大学教育センターの目的の一つである共通教育を実現するための設備充実をはかるべく、新しい視点で多角的な検討を継続して行うことが必要である。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	大学教育センターでは、学生の学修のための学修支援室やキャリア教育を充実させるための自分未来創造室が設けられている。その他、ICT教室やLL教室が整備されている。さらには図書館の利用についても指導をしている。しかし、さらなる教育環境の向上を目指し、施設・設備の充実が必要である。
年度目標	現状を維持
年度報告	既存の施設を十分に活用した。
達成度	S
改善課題	既存の施設を十分に活用したが、さらなる教育環境の向上を目指しての施設・設備の充実が必要である。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	学生の利便性を実現するため、とりわけ共通教育において、学生の実態把握に努め、これを活かすように取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	学生の利便性を実現するため、とりわけ共通教育において、学生の実態把握に努め、これを活かすように取り組んだ。



達成度	S
改善課題	このことのために、学生の実態把握にさらに努める。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	共通教育科目における有効かつ適正な授業クラス分け(人数規模)に関しては絶えず適切な管理がなされるよう、検討を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	共通教育科目における有効かつ適正な授業クラス分け(人数規模)に関し、絶えず適切な管理がなされるよう検討を行った。
達成度	S
改善課題	共通教育科目における有効かつ適正な授業クラス分け(人数規模)に関し絶えず適切な管理がなされるよう、引き続き検討を行う。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	全学の防災・防火管理に関する規則を遵守し、防火のための定期的管理実践に協力している。
年度目標	現状を維持
年度報告	全学の防災・防火管理に関する規則を遵守し、防火のための定期的管理実践に協力した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	共通教育において、これに関わる授業担当教員のもとで、適切に管理している。
年度目標	現状を維持
年度報告	共通教育において、これに関わる授業担当教員のもとで、適切に管理した。
達成度	S
改善課題	特になし
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	大学教育センター独自のマニュアルは作成していないが、全学のマニュアルを遵守し、防災・防火訓練の企画に協力し、定期的にこれを実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	全学のマニュアルを遵守し、防災・防火訓練の企画に協力し、定期的にこれを実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	教職員が学生と密に接触する中で各種学生支援(学修支援、生活支援、進路支援)に取り組んでおり、学修支援・相談室の利用に関しては、フクトークや学生アンケート結果に基づき、学生の意見等をくみ上げるようにしている。あわせて、実際にも数学の基礎力向上の手立てなどに反映させている。
年度目標	現状を維持
年度報告	教職員が学生と密に接触する中で各種学生支援(学修支援、生活支援、進路支援)に取り組んでおり、学修支援・相談室の利用に関しては、フクトークや学生アンケート結果に基づき、学生の意見等をくみ上げた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	大学教育センターとしてその実態把握に努め、保健管理センターとの連携のもとこれに対応することができる体制にある。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学教育センターとしてその実態把握に努め、保健管理センターとの連携のもと、これに対応する体制を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	大学教育センターでは学修支援相談室を中心に、次の講座等を行っている。 ・学修支援相談(数学、日本語表現、英語、中国語、物理、化学、生物、教職等に対応) ・eラーニングシステムの導入により、学内外のどこからでも自学自習を可能にしている。 これらの学修支援の取り組みについては、各種のアンケートにより成果を検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学修支援相談室を中心に相談に応じるなど、これらの取り組みを継続して進めた。
達成度	S
改善課題	各学部学科のニーズを把握するとともに、より多くの学生の学修支援の効果的な利用をすすめる。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

### 基準3. 教育課程

#### 領域: 卒業認定、教育課程、学修成果

2019年度

大学教育センター運営委員会

中長期計画	大学全体の教育目標を示す「福山大学教育システム」および「福山大学における共通教育」に沿って、大学教育センターに置かれた「全学共通教育部門」の他、「共通教育・専門教育等連携部門」、「教育開発部門」、「教学IR部門」、「資格教育分門」、「学修支援部門」の各部門と連携して、「共通教育課程」の教育内容・方法の妥当性を継続的に検証し見直し、本学共通教育の質的改善・向上に取り組んでいく。
-------	---

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	各学部学科のディプロマポリシーとカリキュラムポリシー、カリキュラムマップを学生便覧、ホームページに掲載することで周知している。4月のガイダンスで当該年次生の取得すべき科目と目標を説明している。 共通教育の教育目標および教育課程の編成等は、教職員および学生に配布される「学生便覧」・「教務のてびき」に記載されており、本学ホームページからも随時閲覧可能であり、それらの媒体を通して周知が行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	各学部学科のディプロマポリシーとカリキュラムポリシー、カリキュラムマップを学生便覧、ホームページに掲載することで周知に努めた。共通教育の教育目標および教育課程の編成等は、教職員および学生に配布される「学生便覧」・「教務のてびき」に記載されており、本学ホームページからも随時閲覧可能であり、それらの媒体を通して周知した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学ホームページ ②学生便覧 ③大学要覧・シラバス

次年度の課題と改善の方策	特になし。
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	共通教育科目は本学ディプロマ・ポリシーに則り、各学部学科ごとに定める学位記授与の認定要件に適切に組み込まれている。その周知は、教務委員をはじめとする学科教員によって適切に行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	共通教育科目は本学ディプロマ・ポリシーに則り、大学教育センター運営委員会としても、その周知に努力した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	大学教育センターの所属教員が担当する科目については、各自の授業シラバスの中で単位認定基準を明記しており、共通教育に関する学業成績は各専門学部・学科が公表する各種基準に反映されており、厳正に適用されている
年度目標	現状を維持
年度報告	大学教育センター「教育開発部門」は教務委員会等と連携して、全学的立場から各学部学科の学位授与の基準・手続きの整合性および適切性を検証し、単位認定基準についても、シラバスへの記載によって公表している。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①教務のてびき ②シラバス(平成31年度)
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	共通教育の教育目標および教育課程の編成等については、毎年、大学教育センター「全学共通教育部門」および「部門長等連絡会議」で見直しを行うとともに、「センター自己点検評価委員会」で検証を行う。全学的立場からは「大学教育センター運営委員会」および「教務委員会」でその適切性を審議している。自己点検報告書はホームページで公表されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	共通教育の教育目標および教育課程の編成等については、大学教育センター「全学共通教育部門」および「部門長等連絡会議」で見直しを行うとともに、「センター自己点検評価委員会」で検証を行った。全学的立場からは「大学教育センター運営委員会」および「教務委員会」でその適切性を審議した。自己点検報告書はホームページで公表されている。

達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①ホームページ ②大学教育センター部門長等連絡会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	教務委員会における検討を踏まえ、その一貫性について大学教育センター運営委員会において適宜検討を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	教務委員会における検討を踏まえ、その一貫性について大学教育センター運営委員会においても検討を行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラムマップに年次別、知識、技術、態度別に大目標、年次毎の目標(中目標)、それらを達成するために履修すべき科目(小目標)を定めている。適切性に関しては、次年度カリキュラム編成時に学科会議で議論し、修正の場合は大学教育センター運営委員会にて全学的立場から審議している。「共通教育課程」は本学ディプロマ・ポリシーに則り、専門教育に連結する目標設定型教育システムの基盤部分として各学部学科のカリキュラム・ポリシーの中に具体的に位置づけられている。その適切性は、関係する大学教育センター自己点検評価委員会で検証する。
年度目標	現状を維持
年度報告	カリキュラムマップに年次別、知識、技術、態度別に大目標、年次毎の目標(中目標)、それらを達成するために履修すべき科目(小目標)を定め、適切性に関し、修正の場合は大学教育センター運営委員会にて全学的立場から審議した。「共通教育課程」は本学ディプロマ・ポリシーに則り、専門教育に連結する目標設定型教育システムの基盤部分として各学部学科のカリキュラム・ポリシーの中に具体的に位置づけ、その適切性を、関係する大学教育センター自己点検評価委員会で検証した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	専門教育を常に視野に入れながらバランスのとれた総合的な教養教育を編成し、実施している。とくに英語教育においては専門英語との接続性について、検証を行っている。
年度目標	現状を維持



年度報告	専門教育を常に視野に入れながらバランスのとれた総合的な教養教育を編成し実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	情報リテラシー系の科目をはじめ、英語系科目についてもICTを活用したLL教室が機能し、これを活用した授業展開を進めている。その他の科目でも、Cerezo及びeラーニング教材を利用した授業形態を常に模索している。
年度目標	現状を維持
年度報告	情報リテラシー系の科目をはじめ、英語系科目についてもICTを活用したLL教室が機能し、これを活用した授業展開を進めた。その他の科目でも、Cerezo及びeラーニング教材を利用した授業形態を常に模索した。
達成度	S
改善課題	アクティブラーニングのさらなる充実のために、その環境整備が望まれる。
根拠資料	①大学教育センター紀要「大学教育論叢 第6号」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	共通教育科目は本学ディプロマ・ポリシーに則り、各学部学科ごとに定める学位記授与の認定要件に適切に組み込まれている。その周知は、教務委員をはじめとする学科教員によって適切に行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	共通教育科目は本学ディプロマ・ポリシーに則り、各学部学科ごとに定める学位記授与の認定要件に適切に組み込まれており、その周知は、教務委員をはじめとする学科教員によって適切に行われた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	大学教育センター運営委員会を中心にアセスメントポリシー及びその運用について継続的に検討するとともに、実践を行っている。
年度目標	現状を維持



年度報告	大学教育センター運営委員会を中心にアセスメントポリシー及びその運用について検討を行った。評価システムを整備し、学修成績の可視化を実現した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	適切な教育内容を提供できるように配慮がなされている。毎年、共通教育科目について、受講学生対象の授業評価アンケートを実施している。各科目担当者は、その結果をもとに受講学生に向けたフィードバックを実施し、教育内容の見直し・改善を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	フィードバックを行い、学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録 ②授業評価アンケートフィードバック報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

## 基準4. 教員・職員

**領域:** 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2019年度

大学教育センター運営委員会

中長期計画	共通教育を主として担当する大学教育センターの教員組織は、専任教員と兼任教員から組織されている。実際の共通教育科目の授業は、専任教員と兼任教員の他、非常勤講師と各学部学科の一部の教員によって担当されている。今後、共通教育科目の充実化を目指して、担当教員の増員が望まれる。
-------	--

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長のリーダーシップのもと、大学教育センター規則をはじめとする規則に基づき、大学教育センター長は教学マネジメントに関して適切にそのリーダーシップを発揮している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学長のリーダーシップのもと、大学教育センター規則をはじめとする規則に基づき、大学教育センター長は、大学教育センター教員会議等を通じて、教学マネジメントに関して適切にそのリーダーシップを発揮した。
達成度	S

改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	各種の委員会に適切に人材を配置し、それぞれの責任においてその権限役割を発揮するようにマネジメントが適切に行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	年度初めに、各種委員会に人材を適切に配置し、それぞれの責任においてその権限役割を発揮させ、教学マネジメントを適切に行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	年度初めに、各種委員会に適切に人材を配置し、それぞれの責任においてその権限役割を発揮し、教学マネジメントが適切に行われている。特に2名の現員助手は教学マネージメントにおいて、他の教員を補佐し、重要な役割を果たしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	年度初めに、各種委員会に適切に人材を配置し、それぞれの責任においてその権限役割を発揮し、教学マネジメントを適切に行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	共通教育を主として担当する大学教育センターの専任教員は、新規助手の加入により30年度は13名となった。今後の状況により、さらに共通教育科目の専任教員の補充や学部教員による兼任の要請、非常勤教員など充実化を継続して検討している。
年度目標	基本的には現状を維持するが、可能であれば、IR室主担当者の強化充実を図るとともに、英語の専任教員の補充を要望したい。
年度報告	共通教育を主として担当する大学教育センターの専任教員は、新規助手の加入により令和元年度は13名となったが。英語専任教員の採用が実現した。
達成度	S

改善課題	今後の状況により、さらに共通教育科目の専任教員の補充や学部教員による兼任の要請、非常勤教員など充実化を継続して検討することが必要である。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	これらの基準を満たすような人員配置が行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	基準を満たすような人員配置を維持した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	大学教育センターの教育開発部門が全学の取り纏めを行って、大学ホームページで公表して推進している。同部門ではまた、全学対象のFD研修会・授業参観等の組織的研修・研究会が企画・実施している。これとは別に、大学教育センター所属教員間での授業研究を通じたFD活動も行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学教育センターの教育開発部門が全学の取り纏めを行って、大学ホームページで公表して推進している。同部門ではまた、全学対象のFD研修会等を企画・実施した。これとは別に、大学教育センター所属教員間での授業研究を通じたFD活動も行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取組みを実施していますか。
現状説明	大学教育センターの教育開発部門が全学の取り纏めを行って、大学ホームページで公表して推進している。同部門ではまた、全学対象のSD研修会・授業参観等の組織的研修・研究会が企画・実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学教育センターの教育開発部門が全学の取り纏めを行って、大学ホームページで公表して推進した。同部門ではまた、全学対象のSD研修会を企画・実施した。
達成度	S

改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター紀要『大学教育論叢第6号』
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	専任助手一名が全学IR室に配置され、大学全体の運営効率の改善のためにICT活用を推進している。
年度目標	現状を維持
年度報告	専任助手一名が全学IR室に配置され、大学全体の運営効率の改善のためにICT活用を推進した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究支援を可能にする教員組織と業務の負担配慮と分担の適正化が図られており、研究支援の環境が保証されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	研究支援を可能にする教員組織と業務の負担配慮と分担の適正化が図られ、研究支援の環境が維持された。
達成度	A
改善課題	教員の研究時間の確保に努め、研究の成果が上がるように努める。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	研究倫理に関する研究倫理委員会規定が整備され、「研究関連ガイドブック」やFD等によってコンプライアンス意識を高め、教職員間で共有している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	研究倫理に関する研究倫理委員会規定が整備され、「研究関連ガイドブック」やFD等によってコンプライアンス意識を高め、教職員間で共有した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	競争的資金獲得が奨励され、その確保のための支援が図られるなど、これらの運用は適正になされている。
年度目標	現状を維持
年度報告	競争的資金獲得が奨励され、その確保のための支援が図られるなど、これらの運用は適正になされた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	福山大学学術研究倫理審査委員会を設け、福山大学学術研究倫理審査委員会規程に従って研究を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	福山大学学術研究倫理審査委員会を設け、福山大学学術研究倫理審査委員会規程に従って研究を実施した。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

## 基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2019年度

大学教育センター運営委員会

中長期計画	<p>福山大学自己点検評価規程が、本学の教育・研究、組織、運営、施設設備の状況等について、全学の組織において定期的に自己点検・評価を行うことにより改善改革を推進し、本学の教育・研究等の適切な水準の維持、充実に努め、もって社会的使命を達成することを目的として平成26年4月に制定された。これらを実施するために改革推進委員会、全学自己点検評価委員会、学部等自己点検評価委員会全学外部評価委員会、学部外部評価委員会が置かれている。</p> <p>大学教育センターにおいては、平成26年度より自己点検評価を大学教育センター自己点検評価委員会で行い、内部質保証に関して、その点検・評価・公表を行うなどし、本年度以降も引き続きその質を高めていく。</p>
-------	---



中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	福山大学自己点検評価規程が平成26年4月に制定され、システムは整備されており、手続きは明確である。 内部質保証を図る推進拠点、学長をトップとし、全般にわたる点検・評価・改革・改善に携わる「改革推進委員会」と、主に教育に関する点検・評価・改革・改善に携わる「大学教育センター」が整備されている。 教育改善については、大学教育センター教員会議が自己点検・評価に基づく内部質保証を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	内部質保証を図る推進拠点である全学の「改革推進委員会」の指示のもと、主に教育に関する点検・評価・改革・改善に携わる大学教育センター教員会議が有効に機能した。教育改善についても、自己点検・評価に基づいて内部質保証を図った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録 ②大学教育センター自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	学長を委員長にして副学長、学長補佐の下に改革・改善に繋げるシステムが整備されており、その中で内部質保証のための点検を行っている。結果は大学教育センターの教職員が共有している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学長を委員長にして副学長、学長補佐の下に改革・改善に繋げるシステムが整備されており、その中で内部質保証のための点検を行った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録 ②自己点検評価結果
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	大学教育センターとして、全学共通教育部門、教育開発部門、学修支援部門、資格取得支援部門の4つの部門が置かれ、センター設置以来、1) 本学の学士課程教育の質向上のための喫緊の課題の企画・立案、2) 授業評価アンケート等学生調査による質保証、及び3) FD活動による質保証の機能を果たしている。平成30年度からは全学IRを担当する組織としてIR室が設置され、全学的にその機能強化が図られた。
年度目標	IR室と協働して、改善を図る。



年度報告	大学教育センターとして、全学共通教育部門、教育開発部門、学修支援部門、資格教育部門の4つの部門が置かれ、センター設置以来、1) 本学の学士課程教育の質向上のための喫緊の課題の企画・立案、2) 授業評価アンケート等学生調査による質保証、及び3) FD活動による質保証の機能を果たしている。平成30年度からは全学IRを担当する組織としてIR室が設置され、全学的にその機能強化が図られた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	新設のIR室専任教員は大学教育センター助手であり、同センターと協力して、内部質保証のためのPDCAサイクルの効果を検証し、改善を図りながら、その取り組みを進めている。
年度目標	IR室と協働して、改善を図る。
年度報告	IR室専任教員は大学教育センター助手であり、同センターと協力して、内部質保証のためのPDCAサイクルの効果を検証し、改善を図りながら、その取り組みを進めた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」「学術研究における倫理審査について」「男女共同参画宣言」「研究費の取扱いについて」「個人情報管理基本方針」等の下で、コンプライアンス意識向上、ハラスメント防止等のための研修・アンケートを実施し、交通安全についても教職員への周知徹底を図った。
年度目標	現状を維持
年度報告	「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」「学術研究における倫理審査について」「男女共同参画宣言」「研究費の取扱いについて」「個人情報管理基本方針」等の下で、コンプライアンス意識向上、ハラスメント防止等のための研修・アンケートを実施し、交通安全についても教職員への周知徹底を図った。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

**基準7. 福山大学ブランディング戦略****領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価 (本学独自基準)**

<b>中長期計画</b>	人と自然の関わりを横断的に追究する福山大学ブランディング戦略の理念を踏まえ、例えば地域学(F群)等の共通教育において、「瀬戸内の里海・里山学」につながるような視点を持ちながら、研究の実現に向けて協力していく。
--------------	--

<b>中点検項目</b>	<b>7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進</b>
<b>点検項目</b>	<b>① 福山大学ブランディング戦略(ver. 2018)の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。</b>
現状説明	
年度目標	ブランディング戦略事業についての理解を深める。
年度報告	大学教育センター教員会議において福山大学ブランディング戦略に関する教職員の理解を深めた。教養教育の中の地域学等の授業において、履修学生の関心と理解を深めた。
達成度	<b>S</b>
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センター教員会議(2019年4月4日)議事録;年間事業計画の検討の中で言及
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	大学教育センターにおいては、そのような状況には至っていないが、共通教育の一環として地域学の授業を設けるなど、その理解を深めることに取り組んでいます。
年度目標	すでに展開している地域学(F群)等の共通教育において、ブランディング戦略研究の一翼を担う。
年度報告	共通教育の一環として地域学の授業を設け、その理解を深めることに取り組んできた。
達成度	<b>A</b>
改善課題	「地域学」の領域を検証し、当事業への学際的な参加のあり方を探り、その充実を図る。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター紀要『大学教育論叢』第6号
次年度の課題と改善の方策	
<b>点検項目</b>	<b>③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。</b>
現状説明	共通教育の一環として地域学の授業を設け、「松永に学ぶ産業と文化」等、地域に関する学生の理解を深めることに取り組んでいます。
年度目標	可能な限りこれに努める。

年度報告	共通教育の一環として地域学の授業を設け、その理解を深めることに取り組んできた。
達成度	A
改善課題	「地域学」の領域を検証し、当事業への学際的な参加のあり方を探り、その充実を図る。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター紀要『大学教育論叢』第6号
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	共通教育の一環として地域学の授業を設け、地域に関する学生の理解を深めることに取り組んできている。
年度目標	戦略の理念を理解し、可能な限りこれに努める。
年度報告	共通教育の一環として地域学の授業を設け、その理解を深めることに取り組んできた。
達成度	A
改善課題	「地域学」の領域を検証し、当事業への学際的な参加のあり方を探る一方で、学生の学修実態を見極めながら改善課題を把握する。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター紀要『大学教育論叢』第6号
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	共通教育の一環として「地域学」の授業を設け、その理解を深めることに取り組んでいる。また、「地域学」の領域を検証するとともに、インターンシップの単位増に相応しい活動の強化を図りながら、育成する人材のあり方について卒業生アンケート等に基づき、検証している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	共通教育の一環として「地域学」の授業を設け、その理解を深めることに取り組んできた。
達成度	A
改善課題	「地域学」の領域を検証するとともに、インターンシップの単位増に相応しい活動の強化を図りながら、育成する人材のあり方について卒業生アンケート等に基づき、検証する。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター紀要『大学教育論叢』第6号 ③卒業生アンケート調査報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	共通教育の一環であるキャリア教育、インターンシップ並びに「地域学」の取り組みを行っている。なお、この「地域学」の領域を検証するとともに、インターンシップの単位増に相応しい活動の強化を図りながら、教育研究としての成果を高めようとしている。
年度目標	現状を維持

年度報告	共通教育の一環として「地域学」や「インターンシップ」の授業を設け、その授業目標の達成度を検証した。
達成度	A
改善課題	「地域学」の領域を検証するとともに、インターンシップの単位増に相応しい活動の強化を図りながら、教育研究として充実を図る。
根拠資料	①第2回、第3回、第5回、第8回大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター紀要『大学教育論叢』第6号 ③2019年度卒業生アンケート調査報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	共通教育の一環として「地域学」や「インターンシップ」の授業を設け、これらを中心に「全人教育」の実践に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	共通教育の一環として「地域学」や「インターンシップ」の授業を設け、これらを中心に「全人教育」の実践に努めた。
達成度	A
改善課題	「地域学」の領域を検証するとともに、インターンシップの単位増に相応しい活動の強化を図りながら、「全人教育」に関しての、共通教育と専門教育の接続のあり方を、より深く求めていく。
根拠資料	①大学教育センター教員会議議事録 ②大学教育センター紀要『大学教育論叢』第6号 ③卒業生アンケート調査報告
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

大学教育センター運営委員会

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	㊦ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	プロジェクト研究「瀬戸内の里山・里海学」には直接関わっていないが、これを中心的に推進する学部・学科に可能な限り協力する。
年度目標	現状を理解し、専任各人の専門性に応じて、このプロジェクトに関わっていく。
年度報告	プロジェクト研究「瀬戸内の里山・里海学」には直接関わっていないが、これを中心的に推進する学部・学科に可能な限り協力した。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①大学教育センターのホームページ ②大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊧ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	内部資金及び外部資金の確保は出来ていないので、資金獲得に向けた検討は始めている。

年度目標	資金獲得に向けて検討する。
年度報告	内部資金及び外部資金の確保は実現していない。
達成度	<b>B</b>
改善課題	研究資金の確保に向けた検討を始める。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	少なくとも科研費への積極的応募により外部資金の獲得に努める。
点検項目	<b>③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。</b>
現状説明	発表することが出来るまでの研究は、現在進んでいない。
年度目標	共通教育におけるブランディング研究の可能性を探ってみる。
年度報告	発表することが出来るまでの研究は、現在進んでいない。
達成度	<b>B</b>
改善課題	まずは、関連の研究の可能性を探ることに努める。
根拠資料	①大学教育センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	ブランディング研究のテーマに直接関わる研究を行うスタッフを欠いているが、何らかの関連を見だし、積極的な関与を図るように努めたい。